

石仏から見る 船橋周辺の女人講



八千代市麦丸 子安講の掛け軸
文化15年(1818)「子安大明神」



前原東五丁目 道入庵
宝永2年(1705)十九夜塔



金堀町 竜蔵院
天明5年(1785)「子安講」



高根町 神明社
文政7年(1824)「女人講中」石祠

船橋市の女人講の石塔に出会って 海辺の街道筋の仏たち



本町2丁目路傍
「西向き地蔵」(延命地蔵像)
万治元年(1658)



印内町 木戸内地蔵堂 伝・成瀬地蔵像
貞享4年(1684)
「念仏講連衆」女性19名
左前:寛延2年(1749)「奉造立如意輪観世音
十九夜 講中為二世安楽」



本町3丁目不動院 六面石幢
元禄十四巳年(1701)
「女念仏講為二世安楽」女性名39名

薬円台近辺の女性たちが信仰した石仏・石祠



道入庵（前原東五丁目）

宝永4年（1707）十九夜塔
女人講が奉納した六地藏



前原東五丁目 御嶽神社

文化2(1805)「小安大明神」石祠



薬円台一丁目 神明社 寛政3年
(1791)「子安大明神」石祠



船橋市の女人講の石塔に出会って 下総台地の十九夜塔



延宝5年8月19日(1677)
田喜野井正法寺
「十九夜講
如意輪観世音菩薩
現未来願成就為菩提也」



元禄11年2月19日(1698)
高根町観行院墓地
「十九夜念仏祈」



元禄17年吉日(1704)
高根町観行院墓地
「奉納十九夜成就所」



享保16年10月(1731)
田喜野井正法寺
「十九夜講成就の攸
善女同行三十六人」



宝暦4年(1754)
田喜野井正法寺
「十九夜講成就祈所」



寛政6年(1794)
田喜野井正法寺
「十九夜講中 二十五人」

船橋市の女人講の石塔に出会って 海辺の街道筋の仏たち-2



宝永8年(1711)
西船7路傍「講中六十八人」



延享元年(1744)印内光明寺
「為二世安樂也」



文化6年(1809)正延寺
「十九夜講中」



文化9年(1812)印内光明寺
「十九夜講中」



享保8年(1723)
海神6大覚院
「十九夜念仏講
為二世安樂也」



寛延元年(1748)
正延寺
「造立十九夜念仏」



年不明
正延寺
「十九夜講中」

十九夜塔とは

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「十九夜講」と呼び、関東北東部で盛んに行われていました。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「十九夜塔」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の如意輪観音像が主尊として彫刻されています。



「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では、寛文5年(1665)印西市(小倉青年館)からです。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地藏像の十九夜塔も見られます。

寛文5年(1665)
印西市小倉青年館

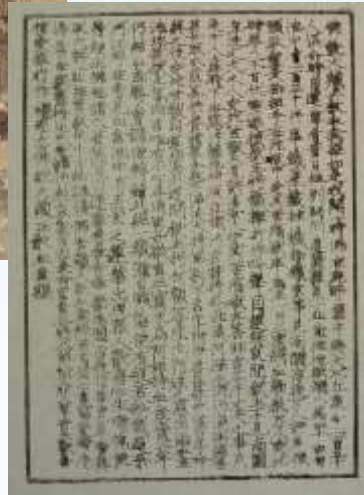


寛文10年(1670)
白井市延命寺

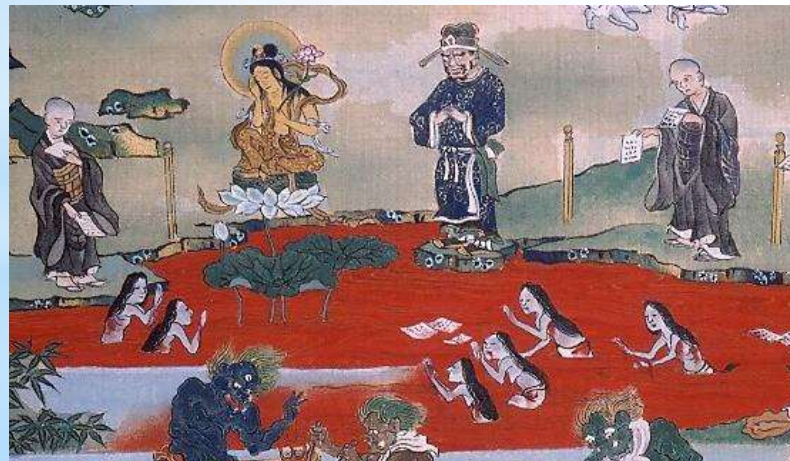
十九夜塔の主尊は なぜ如意輪観音なのか



「熊野観心十界図」六道珍皇寺所蔵



血盆経(富山県立山博物館所蔵)



立山曼荼羅 吉祥坊本(血の池地獄)〔個人所蔵〕

「十九夜念仏和讃」=毎月十九日に集まって、十九夜念仏を唱えれば、血の池地獄に墮ちた女人を如意輪観音が救済して下さる

「血の池地獄」=「血盆経」という室町時代に中国で成立・伝来した差別的な偽経に出てくる地獄

月経とお産で流す血の穢れから女性が逃れられない恐ろしい死後の世界

「如意輪観音=血の池地獄の救済者」

何故血盆経信仰と結びついたのかは、中国における問題であり、その理由は定かではない。

京都六角堂(『聖徳太子=如意輪観音』化身説)⇒「血の池観音図」⇒16世紀後半の岡崎満性寺に伝来

熊野比丘尼の「観心十界図」(血の池・不産女地獄)絵解き=血盆経信仰を勧め、血盆経を頒布した

熊野は女性の不浄”を厭わぬ聖地

⇒熊野比丘尼により女性達がより積極的に血盆経信仰を受け入れる道を拓く

⇒宗派内を越え、如意輪観音が絵画を通して広く各地に定着

血盆経護符の携帯=不浄を他に及ぼさず、死後の成仏を約束⇒安産のお守り⇒関東では正泉寺が喧伝

高辻奈緒美「血盆経信仰の諸相」から

十九夜塔の分布

十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い
特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる

初期の十九夜塔造立数

利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が早い段階から十九夜塔普及の地域となっている

十九夜塔の関東各県別の数

栃木県	2702基
茨城県	1672基
福島県	1449基
千葉県	1175基 *
群馬県	142基
埼玉県	108基

中上敬一氏の2005年報告

* 石田年子氏の2011年の集計で
千葉県 1997基

初期の十九夜塔造立数

寛文10年(1670)まで

茨城県側

利根町	10基
伊奈町	7基
取手市	6基
藤代町	3基
鹿嶋市	3基

千葉県側

印西市	12基
佐原市	6基
印旛村	6基
我孫子	5基



十九夜塔の発祥地-筑波山ろくの石塔



つくば市平沢の八幡神社



つくば市平沢官衙跡(復元)



石造六角地蔵宝幢
(16世紀末)



「寛永九年(1632)三月十九日 願主敬白」と刻した石塔

雲母片岩に稚拙な彫りで
日月と蓮華座に座す仏像を
刻む

「十九日」の日付から、観
音坐像を彫った十九夜供養
塔で筑波町最古とされている



如意輪観音を主尊とした十九夜塔の初出



茨城県利根町布川の徳満寺
最古の如意輪観音像の十九夜塔 万治元年(1658)銘
 4手の如意輪観音を線彫りした板碑型の塔
 左は時(斎)念仏塔 元禄14年(1701)



木像地藏菩薩立像(子育て地藏)



江戸時代地蔵市の様子(利根川園志 赤松宗旦著)



千葉県内の十九夜塔の初出をめぐって



千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔
中段に「キリーク」の梵字
台石に「承応元年(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘



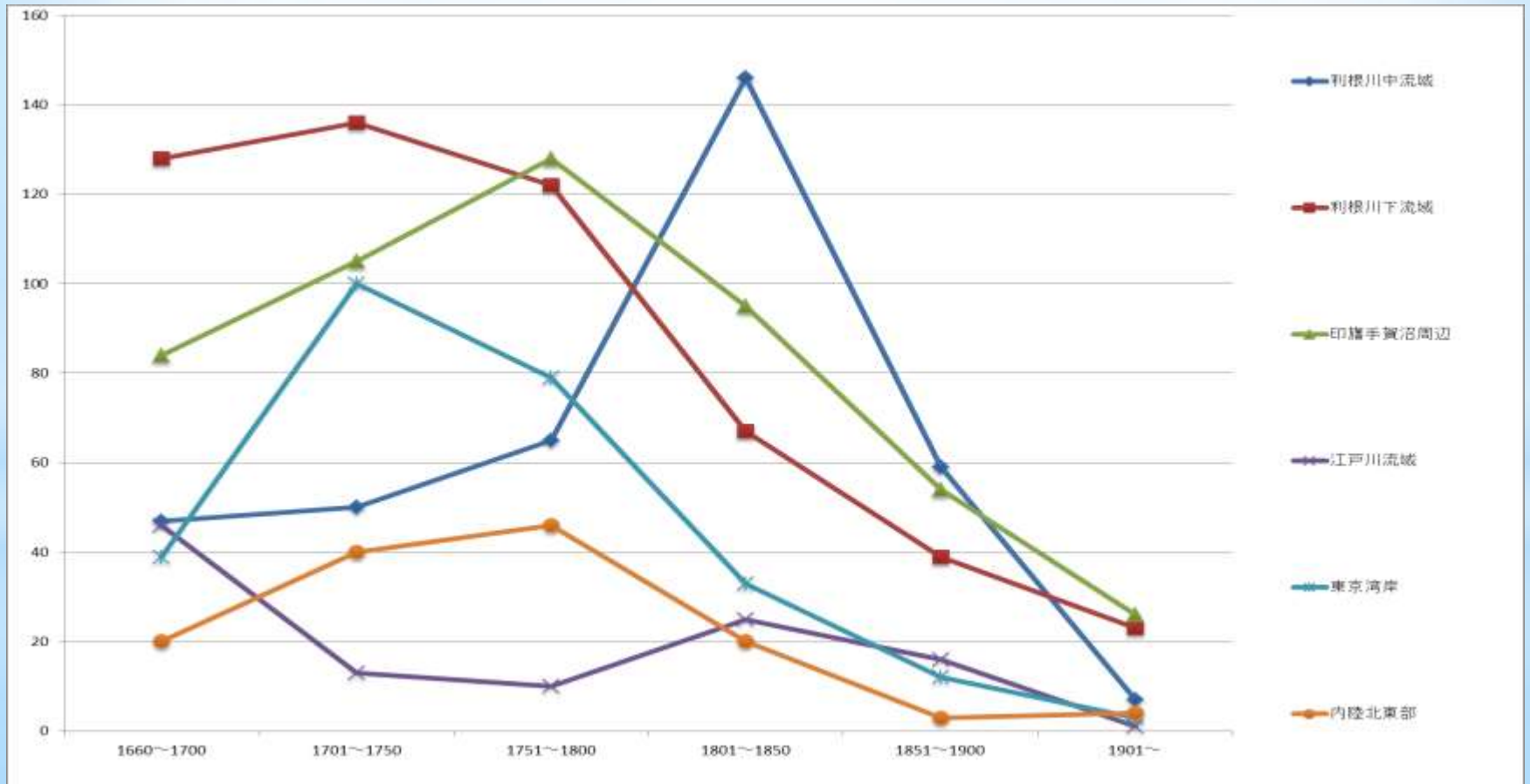
山武郡芝山町加茂普賢院
明暦元年8月(1655)造立の六地藏
立像の石幢
「奉新造立石地藏十九夜待」の銘



山武市本須賀の大正寺
万治2年(1659)宝篋印塔
「上総国山辺庄武射郡南郷本須賀村
奉唱満十九夜念佛二世安隠之所
萬治二年己亥三月十九日
結衆七十五人敬白」の銘

西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

エリア	市町村名						
利根川中流域	野田	柏	我孫子				
利根川下流域	印西	栄町	成田	佐原	東庄	小見川	
印旛手賀沼周辺	沼南	鎌ヶ谷	白井	八千代	佐倉	酒々井	印旛 本埜
江戸川流域	市川	松戸	流山				
東京湾岸	船橋	習志野	千葉				
内陸北東部	四街道	富里	大栄	山田	八日市場		



船橋市の女人講の石塔に出会って 子安像塔の登場



安永8年(1779)
米ヶ崎 無量寺
「奉建立十九夜講中」



天明5年(1785)
金堀町 竜蔵院
「子安講中 三十七人」



文政7年(1824)
高根町神明社
「女人講中」石祠

船橋市の女人講の石塔に出会って 子安像塔の展開



文政7年(1824)
東町 不動院
「当村講中」



天保12年(1841)
東船橋日枝神社
「女人講中」



明治3年(1870)
飯山満町三丁目
王子神社
「子安大明神」



文久2年(1862)
前貝塚町 行伝寺
「鬼子母神」

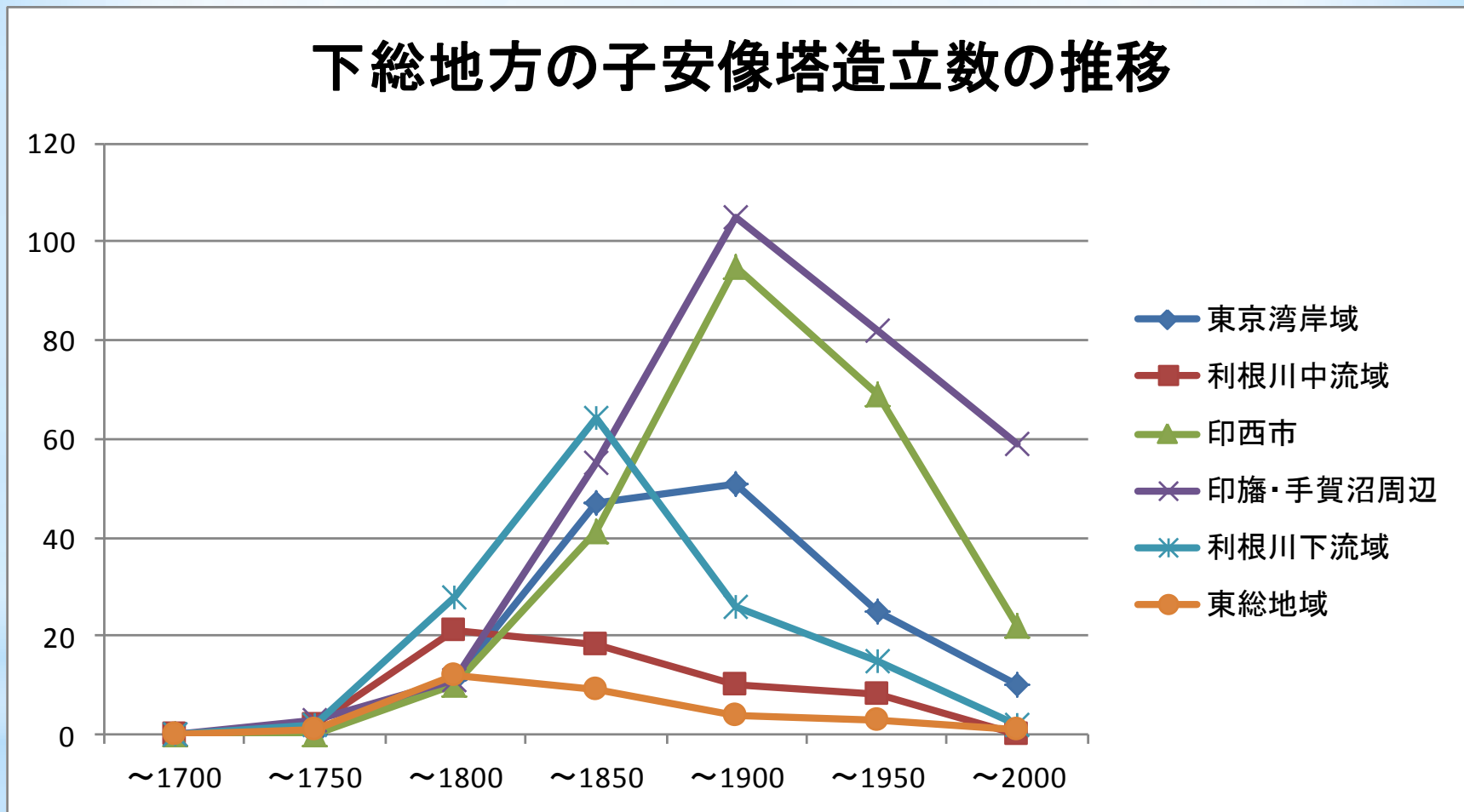
明治19年(1886)
八木が谷長福寺
「子安観世音 女人講中」



明治20年(1887)
古作町 熊野神社



図3 下総地方の子安像塔造立数の推移



北総の子安塔を訪ねて 下総町（現成田市）と成田市北須賀の子安さま



明和元年(1764) 下総町 高・台十字路



左は 天明8年(1788)の如意輪観音十九夜塔 北須賀白旗神社 天明2年(1782)

北総の子安塔 酒々井町の子安様



享保 18年(1733)

宝暦元年(1751)
尾上 住吉神社



元文5年(1740)
柏木新光寺跡墓地

子安塔成立のルーツを訪ねて 袖ヶ浦市百目木の子安様-1



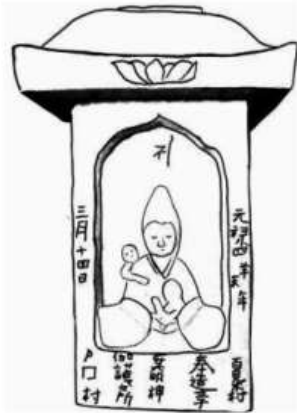
子安塔成立のルーツを訪ねて 袖ヶ浦市百目木の子安様-2



子安塔成立のルーツを訪ねて 袖ヶ浦市百目木の子安様-3



千葉県の出現期の子安像塔



袖ヶ浦市
百目木子安神社
元禄4年 (1691)



酒々井町
柏木 新光寺墓地
元文5年 (1740)



酒々井町
下岩橋 大仏頂寺
延享元年 (1744)



酒々井町
伊篠 白幡神社
明和7年 (1770)



香取市
虫幡日向山薬師堂
元文5年 (1741)



栄町
西新田霊園
元文5年 (1741)



酒々井町
尾上住吉神社
宝暦元年 (1751)



酒々井町
酒々井朝日神社
宝暦4年 (1754)

八千代市 高津新田 諏訪神社の子安様



元治2年(1864)子安地蔵



弘化5年(1848)子安観音

八千代市 高津観音寺の十九夜塔と子安塔-1



現代の高津の子安講



高津観音寺に並ぶ十九夜塔と子安塔14基

延宝2年(1674)～明治6年(1873)の7基は、如意輪観音像
明治19年(1886)～昭和25年(1950)の6基は子安観音像
昭和57年(1982)は、聖観音像



八千代市 高津観音寺の十九夜塔と子安塔-2



十九夜塔の如意輪観音像

延宝2年(1674)



正徳3年(1713)



子安観音像

昭和2年(1927)

八千代市 高津観音寺の十九夜塔と子安塔-3



八千代市 麦丸の「子安びしゃ」
2016年3月17日 東福院境内の「やすらぎの家」にて





子安講の本尊「子安大明神」の掛け軸
文化15年(1818)奉納



当番が花を手向けた東福寺境内の子安さまの祠には、文化7年(1810)「子安大明神」銘の石祠をはじめ、大正・明治の子安像塔が祀られている。



盛り米に桜の枝と鶴亀を飾った蓬莱
灯明(燃えさしは、お産の近い方へ)
七つの具の入った「神様へのごちそう」



一、めーれエーれたアーやアなアアアこーれエーのオーおオオぞア　シイーきイー

とオこオーろオオよオオろオこオ　オぶー　はアばアをオオとオるー

なアにイこーとオーとオーもオオオかーきイトオ　るウーよーオーおオーにイー

ひイーとオーのオもオオちイエ　エのオーあアるウよオおオオにイー

二、とーもオオだアちイにイイかアーそオわア　れエーもオおオーシイテエー

こオやアすうごオオもオリー　イエエま。えエリイーテー

はアなアーばアアーなーとオオオまアアーえエ　リイイもオオおオオーシイテエー

だからアおオさアアずけ　エーテエーた。アもオオおオーれー

花見帳





新旧当番が盃を交わす「おとうわたし」